

証拠④で示されているホウキが、犯行で用いられたものであることは一応、推認を経て認定できることです。余裕があれば、この点をもう少し丁寧に書くと点数に繋がります。

第1 設問1

## 原則の指摘OK

1. 原則として、被疑者は逮捕される際には、逮捕状を示す必要<sup>(判例44年旭203(2))</sup>があるところ、本件では既に逮捕状をの提示を受けているものの本件逮捕状と所与していないから、これにめ、被疑者には本件逮捕状を示すことにより逮捕においているが、事新訴訟。

2. しかし、5列外部的に、急遽主要な結果には、不確定性の連鎖補  
正を示すのに連鎖補正のことが認められている (同記 <sup>93839</sup> 2018 2版)

い) 1) 子持の建補状をこの時として~~おこなう~~<sup>いはおこなうにたい</sup>、「おこなう」しているために  
2) これを「おこなう」が主(よい場合)にあたる。

(2)  $A$ には2以上のtopesがあり、自然にヒリ来てあつた  
 ニビの2点補完は可と、再度見れば可とは同義と見えられ

そのため、「急遽と変更する」とある。

3. 以上より,  $P$  が  $A$  の素点の場合に,  $A$  は  $P$  において  $\mathbb{Z}_p$  の素点である。

15 逮捕状が送付されている旨を告げよう（同法201年2項、73  
16 年3項）、逮捕後には2年を限り逮捕後にAに逮捕状を提出  
17 する場合に限り（同法201年2項、73年3項但書）、適当なと

通常逮捕同様の203条1項は余裕があれば書いておきましょう。

設問 2 (1)

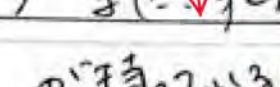
1. 強盗罪が成立するには、「暴行又は脅迫」を用いて財物を強  
取することが必要あり。「暴行又は脅迫」は、被害者の反抗を抑制す  
るに必要程度のものが必要である(判例) (刑) 236条(強)

実務基礎では刑法と異なり、論証を長々と書く必要がないことは確かです。しかし、本問は「脅迫」該当性を論じることが求められているので「社会通念上一般」、「客観的基準」といった検討の方向を示すべきといえます。

逃亡体制が整っていると思われること、自宅に帰っていないこと、の重要な2点を指摘・評価できています！

逮捕段階なので公訴事実ではなく被疑事実になります

2. (1) 手紙において、Vは友人から「お土産があれば友達から喜ぶ」と脅迫めいた言葉で脅かし、お土産を渡している。しかし、友人が持っていたものは盗品（盗品）であり（言訳②）、見ればすぐに分かるので「お土産（盗品）」、つまり「盗品」かつ「盗品」部が40cmほどしか（盗品）であるから（言訳④）、二のようにはお土産でVが反抗を抑圧される程度に脅迫されたとは考えにくい。

(2) また、犯人は160cmの身長で、目撃まじりという認識とVが持っているところ(証拠②)、Vは20代で(80cm、83kg)と背が高く、大柄であるから、身体的にもVの方が勝っている。ゆえに、犯人にタコが入っていることも、実際に暴行されたんか? でも、Vが両腕を伸ばしてやる程度に暴行されたんか? とは言えないが、海岸方向に開かれており逃げやすいという事情はかなり悪いところですが、午前8時前と明るいこと、それなりに人々もおられると思われること、は拾いたいところでした。

海岸方向に開かれており逃げやすいという事情はかなり難しいところですが、午前8時前と明るいこと、それなりに人通りもあると思われること、は拾いたいところでした。

<sup>14</sup> 3. 次に例、板厚が、Aの強度を要するだけの材料で巧  
<sup>15</sup>  $\bar{\sigma} = T_0$

16 4月3日 訪問 2(2) 本間はまだ公判前整理手続段階です。

17 許国の要領にある、2. 榎原宮は、書面を裁判所に提出して申請  
18 許可 (民事訴訟法 312 条 (2) 項、同法規則 209 条 (1) 項)。二

19 の日、原告1部を添付し、裁判官がAに原告を2年2達した後  
20 (二、検察官は判決期間において、上記書面を朗読可(同題  
21 目) 209年2項~4項)。

第4 問3



同一性から犯人性推認までも書く必要があります。  
被害品がA宅から発見されたことから直ちにAが犯人  
であることが認定できるわけではないので、推認過  
程とその強度を論じることが必要です。

1. Aの犯人性を立証する上で最も重要な事実として、Vが犯人  
に3度目の見取印が「イトローバー」製で個体IDは「007」Vが  
言及されているところ（証拠②）。A宅に「イトローバー」  
製の見取印で個体IDは「V 007」と記載されたものが発見  
されていることである。
2. ここで直接証拠は、要するに推認過程を経ずに直  
接証明する事実であるところ。上記事実はこれに該当しない  
一節。上記事実から推認過程を経ることにより、犯人がAに  
あるという事実を推認できる可能性があるので、間接事  
実型の証拠であるといえる。  
上記事実が、というより本件では直接証拠が存在しな  
い、ということが重要です。直接証拠がないので間接  
証拠の積み重ねによるという証拠構造になります。
3. 盗まれた財布は、日付では30日か31日かというが、現金日  
の4月20日はVが購入していることが銀行から理問で  
（証拠⑥）。またA宅にはAと2つしかないことから考えても  
です。  
そうすると、Vが犯人に3度目の見取印とAが財布に2つ見取印  
が1つある可能性が高い。  
また、Aの右腕と左手にはおなじみのタトゥーがあるところ  
（証拠⑧）。犯人にも同様のタトゥーがある（証拠②）。こ  
の事実はAと犯人との同一性を高めるものとなる。  
これは別の事実なので本問では不要です
- 第5 証拠④
1. AとXとは、犯人性を否認する方向性で合意していたにもか  
かわらず、XはAからの同意なく犯人であることを認める主張を  
している。これは、弁護人の誠実義務（弁護職務基本規程

誠実義務も内容を明確化しておきま  
しょう。

消極的真實義務と誠実義務の対立という構造で書けています。  
非常によく出題される聞き方なので本問で書き方を身に付けましょう。

- 5年)に反しないか。
2. 弁護人とは、依頼人の利益に反らぬよう努める義務  
がある一方で、真實義務（同規程5年）もあるが、消極  
的義務にとどまるものである。  
消極的真實義務の内容は具体的は書  
きましょう。
- 本件では、Aが真犯人にもかかわらず「犯人性を否認するこ  
とは真實義務に反し、犯人性を肯定することは誠実義務に反  
するよう」に見える。しかし、上記のとおり、真實義務は消極的  
なものである。無罪推定の原則から、誠実義務を優先  
すべきである。  
消極的真實義務の内容と結論を結びつけましょう。また、無罪推定の指摘  
自体は適切ですが、もう少し説明しないと誠実義務優先を導けません。
- よってXの行為は誠実義務に反するものである。
- 秘密保持義務も頻出なので確認しておきましょう！
- 以上



採点基準

	配点	得点
第1 設問1	[10]	[10]
201 条1 項（1 点）， 201 条2 項（1 点）， 73 条3 項（1 点）の指摘	3	3
逮捕状の緊急執行について各要件を適切に指摘している（各1 点） ①被逮捕者につき既に逮捕状が発付されているが逮捕者が令状を所持しない ②逮捕を急速に行う必要がある ③被疑事実の要旨，及び令状が発せられている旨の告知	3	3
上記①，②要件のあてはめ	2	2
逮捕後，できる限り速やかに逮捕状を告知すべきことの指摘	2	2
第2 設問2	[15]	[9]
1 小問(1)		
(1) 「暴行又は脅迫」の意義	3	2
(2) 具体的な証拠及び事実に基づいて，暴行・脅迫の程度が小さくなること が適切に論じられている（証拠，及び事実とその評価につき各2 点の6 点満点）	6	4
(3) 結論	1	1
2 小問(2)		
(1) 証明予定事実記載書面が提出されていることの指摘	1	0
(2) 同書面を 316 条の 21 第1 項に基づいて変更することの指摘	2	0
(3) 裁判所への提出，A 又はX への提出が必要なことの指摘	2	2

第3 設問3	[10]	[8]
(1) 間接事実型の証拠構造を用いることの指摘	1	1
(2) 選択した事実の明示	2	2
(3) 選択した事実が証拠上認定できるかの検討	3	3
(4) 選択した事実の推認力の検討が適切に論じられている	4	2
第4 設問4	[15]	[7]
<sup>1</sup> (1) 誠実義務と真実義務が問題となることの指摘	2	2
(2) ア．誠実義務の意義	2	1
イ．真実義務の意義	2	1
ウ．積極的真実義務と消極的真実義務の相違，及びどちらを選択するか	2	1
(3) (1)についてどちらを優先させるべきかの結論	2	2
<sup>2</sup> 守秘義務違反が問題となること，及び原則許されないことの指摘	2	0
「正当な理由」の有無が問題となることの指摘	2	0
結論	1	0
合計点	50	34

## 講評

---

設問 2 (1)、設問 3 という証拠から事実を認定・評価するという実務基礎科目でもっとも差がつく部分について丁寧に論じられている良い答案でした。証拠から事実を認定する作業については、当該証拠から直接認定できる事実は何かを意識することが大切です。例えば証拠④からは、W2 が掃除に使っているホウキのサイズ・品質、そしてこれが犯行日には定位置になく、折って捨てられていたという事実が認定できます。したがって、このホウキが犯行に用いられたホウキであることを言わなければ意味のない証拠になってしまう、という意識を持つことが必要になります。

公判前整理手続や法曹倫理は実務基礎でしか出題されない分野といえ対策が遅れがちな分野です。しかし、実務基礎での高得点は合格に直結しますので、ぜひ対策していただきたいところです。まずは本問の復習をしっかりと行い、周辺条文等についても確認していただければと思います。

引き続き頑張ってください！！